別紙

嘉麻市学校施設整備基本方針（案）

平成 30 年　　月

嘉麻市教育委員会

嘉麻市教育委員会は、平成 30 年６月に改訂した「嘉麻市学校施設整備基本計画（改訂版）」に則り、学校施設整備を実施していきます。

なお、学校施設整備の実施にあたり、公平・円滑に推進するための指針となる、基本コンセプト及び基本コンセプト実現にむけた施設整備について以下のとおり定めます。

嘉麻市教育基本条例

（基本理念）

第２条　教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び地域社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な市民の育成を期して行われなければならない。

２　市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

３　家庭、地域住民及び市は、前２項に定める基本理念の実現に努めるものとする。

≪施設整備の基本方針イメージ図≫

※１：４ つの課題とは、嘉麻市教育の目標である「就労できる力」を達成するために、教育委員会の重点課題として取り組んでいる「学力向上」「不登校解消」「規範意識の醸成」「郷土を愛する人材育成」

≪基本コンセプト≫

（Ⅰ）質の高い教育を実現する学校

小学校への外国語科導入や特別支援教育の充実、国際化・情報化への対応や個人の特性に合わせた教育の実施等、学校では多様化する教育活動への対応が求められています。嘉麻市教育委員会としては、多様化する教育活動に対し、小・中学校が、児童生徒の情報を共有し、同じ方向性の教育目標を各々が設定し、その目標達成のために、学習内容や生活指導等、義務教育９年間を継続的に捉えることが、質の高い教育を実現していくためには必要と考えます。そのための教育方法として**『施設一体型小中連携教育』**を選択し、小・中学校が教員それぞれの専門分野を最大限活用し合うことで、児童生徒に質の高い教育を提供することが可能となる教育環境の整備を目指します。

（Ⅱ）地域創造の核となる学校

これからの学校は地域の重要な資源であると考え、学校と地域の連携をすすめ、これまで培ってきた地域の伝統や文化を継承していく役割とともに、新たな教育文化を発信していくための拠点施設となる学校を目指します。

【基本コンセプト実現に向けた施設整備】

（１） ４つの課題等に対応する施設

① 小中連携を推進する施設

義務教育 9 年間を通じて、共通認識の下で 4 つの課題等に対応していくため、小・中学校の教職員が連携し、日常的に情報交換を行いながら児童生徒と向き合っていける施設とします。

（内容）・職員室を共有化し、教職員が情報を共有できる施設
・学年会議や各種委員会等、日常的な打合せを行いやすい施設
・特別教室の共有化や異学年交流スペースを配置した施設

② 明るく清潔な施設

学校は「教育の場」であるとともに、児童生徒が一日の大半を過ごす「生活の場」であり、生活習慣の重要性を学習するための明るく清潔な施設とし、学校環境衛生基準に配慮した施設とします。

（内容）・明るく開放感のある施設
・内装に木材を使用し落ち着いた優しい施設
・明るく衛生的なトイレの設置
・自校給食方式により、食育を推進できる施設

③ 個々の教育的ニーズに応えられる施設

基礎的環境整備※2を充実させ、個々の教育的ニーズに配慮した施設とします。

（内容）・通級指導教室設置校では適切な場所に通級指導教室を設置した施設
・バリアフリー※3及びユニバーサルデザイン※4の考え方を取り入れた施設
・相談室、多目的トイレ、更衣室等の設置

④ コンパクトで機能的な施設

特別教室を小・中学校で共有化し施設全体をコンパクトに集約します。また、各教室の利用効率を高め、活気ある学校、小・中学校一体感のある施設とします。

（内容）・特別教室・管理諸室の共有化
・小・中学校が相互に刺激し合える教室配置
・誰にでも分かりやすい教室配置
・屋内運動場はバスケットコート２面以上、運動場は２００ｍトラックを配置できる施設
・学校プールを設置する場合は、小学校の水深を基本とした学校プールの設置

（２） 新たな教育課題に対応する施設

① 時代の変化に柔軟に対応できる施設

一人一人の個性を伸ばし、生きる力・考える力・課題を解決する力を育むため、様々な教育内容や教育方針に適応し、時代の変化にも柔軟に対応できる施設とします。

将来の教育内容・方法の変化や児童生徒数の減少等に対応可能な柔軟性の高い施設とします。

（内容）・少人数指導に対応した教室の設置
・多様な使い方に対応した多目的室の設置
・可動間仕切り等により間取りを柔軟に変更できる施設
・将来の用途変更等も想定し、間取りの変更が可能（容易）な施設

② 情報化社会に対応できる施設

高度情報化社会において、パソコン等を駆使して必要な情報や知識を獲得する能力を身につけられるようにします。また、獲得した情報を的確に利用する力を高め、知識を学習に活用できる施設とします。

※２：合理的配慮の基礎となる環境整備。なお、合理的配慮とは一人一人の障がいの状態や教育的ニーズに応じて決定されるもの

※３：障がいのある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものの除去

※４：障がいの有無、年齢、性別、人種等に関わらず多様な人々が利用しやすいようデザインする考え方

（内容）・無線 LAN 等により、施設内で自由に情報機器を使用できる施設
・パソコン等の情報機器を身近に使用できる施設
・情報収集に必要なインターネット環境や図書室を関連させた施設

③ 主体的に学べる施設

児童生徒の自主性を尊重し、主体的に学び、学習成果や活動結果を展示・発表できる施設とします。

（内容）・主体的な学びの場として、利便性の高い図書室を配置した施設
・ギャラリーやホール等主体的な活動をサポートできる施設
・９年間の学校生活により人間関係を豊かに発展させ、主体的な学習意欲を喚起する施設

（３） ふるさと嘉麻を心に育む施設

① 地域住民の集いの場となる施設

これからの学校は、地域住民の交流の場の一つであり、地域住民に開かれた学校となることで、日常的な児童生徒が地域住民の交流を通して、ふるさとへの愛着を持てる施設とするとともに、児童生徒が夢を叶えるためのキャリア教育に寄与する施設とします。

（内容）・地域住民、地場産業や企業（ゲストティーチャー等）と児童生徒が交流活動出来るスペースを備えた施設
・地域住民が気軽に教育活動にふれられる施設

（４） 地域の資源として機能する施設

① 利用しやすく、誰にでも優しい施設

学校は児童生徒のみならず、保護者や地域住民等、様々な人々が利用する施設であり、バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、誰もが利用しやすい、誰にでも優しい施設とします。

（内容）・多目的トイレを各階に配置した施設
・大きくわかりやすいサインを配置した施設

② 地域コミュニティの拠点となる施設

学校は地域コミュニティの拠点となる施設であり、地域にとっての貴重な資源であると捉え、地域住民が親しみやすい施設とします。

（内容）・社会教育施設や社会体育施設との共有を想定した施設
・地域住民の利用を想定したゆとりある駐車場と安全な車両動線の確保
・体育館や運動場は学校開放に配慮し、出入り口の分離やクラブハウスの設置等使用区分が明確な施設

（５） 安全・安心を守る施設

① 安全な施設

学校は「教育の場」であるとともに、児童・生徒が一日の大半を過ごす「生活の場」でもあります。また、災害時には地域の避難所としての役割を果たせるよう、必要な機能を有する施設とします。

（内容）・死角の少ない校舎、施設配置
・避難動線や非構造部材の耐震化に配慮した施設
・職員室を中心に学校全体を把握できる施設
・児童生徒と車両の動線を分離した施設
・監視カメラ等により不審者の侵入を監視できる施設
・災害の際に避難所としての機能を果たせる施設
・避難所として使用する際の機能性に配慮した施設

② 維持管理しやすく、長期にわたり機能性を確保できる施設

必要な機能は備えながら、維持管理が容易で、ランニングコストを抑制できる施設とします。

（内容）・簡素な施設配置とし、改修が容易な施設
・防水や外壁材に長寿命な材料を採用した施設
・機器、備品、仕上げ材等は特殊材ではなく一般的な材料を用い、修繕や機器更新を合理的に実施できる施設

③ 環境にやさしい施設

学校施設は施設規模が大きいため、大量のエネルギーを消費します。緑化や省エネ機器の採用等、施設全体の省エネ化を図ります。

（内容）・機器・備品類を、出来る限り再利用した施設
・最新の機器を使用し省エネに配慮した施設
・日照、採光、通風に配慮した施設